天地人

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
まだ青き穂の乳甘し稲雀	残照に少し焦げたる稲雀	選はざる道は消えたり今日の月	大きさも艶も無双の丹波蕈	食べ頃と逃げ頃を知るや稲雀	急群追ふ海鳥の如稲雀	板長の白衣一服秋の暮	唐茄子や水王に愛うつす画家	眼科迷科巡りて見上ぐ鰯雲	野外能黄泉と現世に白い月

はしぐ　夕日、あれど

清記用紙（番号　）写

（　桃　）

南柯句会

選句用紙

選者名

1	2	3	4	5	6	特
食べ頃と逃げ頃知るや稲雀	石垣の外なかりけり城の秋	祖母作る古き土鍋のむかご飯	秋蛙（あきかわず）いろんなポーズでぺっちゃんこ	ストレートティーに一息秋愁（うれ）い	眼科歯科巡りて見上ぐ鰯雲	枝豆や大衆という心地よさ

南柯句会

選句用紙　3　選者名　関洋子

特	6	5	4	3	2	1
今朝よりは金木犀の道となる	鰯雲せがれ転職したといふ	六識（ろくしき）の移ろふ秋の気配かな	ひとまずは簞笥一段冬支度	なぞなぞを出し合いながら鰯さく	無数の汗（イラ）ありて今あり天の川	秋澄むやブロンズ像の足の爪

南柯句会

選句用紙

選者名　上田秋霜

1	2	3	4	5	6	特
ファミレスに配膳ロボの秋うらら	さびれたるぶらくり丁の星月夜	魚群追ふ海鳥（うみどり）の如稲雀	食べ頃と逃げ頃知るや稲雀	孫帰り戦（いくさ）の後の障子貼る	繋がれし鷹（たか）を横目に稲雀	今朝よりは金木犀の道となる

南柯句会

選句用紙

選者名 上窪泰千

1	2	3	4	5	6	特
六識の移ろふ秋の気配かな	ひとまずは箪笥一段冬支度	頂に鉄塔残し霧の中	刈に終へて一陣二陣の稲雀	刈に跡は稲雀の田となりにけり 一斉に刈田となるや日曜日	ふ、ぞろひの栗飯(くりめし)どんと椀に盛る	薬湯や上がるを惜しみ秋の暮れ

南柯句会

選句用紙

選者名　しゃぼん

特	6	5	4	3	2	1
登園は父に抱かれて天高し	焼き印の放馬（ほうば）相寄る霧の朝	野外能 萱（よみ）泉と現世（うつつ）に白い月	天高し寺の大猫渡渡会	鰯雲 せがれ転職したといか	ひとまずは箪笥一段冬仕度	なぞなぞを出し合いながら鰯さく

南柯句会

選句用紙

選者名　真一

特	6	5	4	3	2	1
八窓(はっそう)の切り取る秋の躙口(にじ)	稲雀リスクにまさるベネフィット	六識の移ろふ秋の気配かな	風に乗り笛の音(ね)聞こゆ村祭	飛鳥史を辿るどこそこ曼殊沙華	日窓外(そうがい)メ切りは明日に迫りぬ	無数の汗(イフ)ありて今あり天の川

南柯句会

選句用紙

選者名　鮫島しょうへ

特	6	5	4	3	2	1
なそなそを出し合いながら鶉さく	八窓の切り取る秋の躙口（にじり）	仁丹の看板下ル虫の闇	秋澄むや海を丸めて日の沈む	鶉雲せがれ転職したといふ	稲雀風はじまりの里暮るる	ラシプ丸めの松茸ごはん貰ひけり

南柯句会

選句用紙

選者名　安藤町彦

特	6	5	4	3	2	1
膝小僧に傷よ組体操さやか	板長の白衣一服秋の暮	脳に靄(もや)かかる重さの秋思かな	神棚の榊一本秋の晴	飛行機がゆっくり動く秋の空	ひとまずは簞笥の冬支度	一斉に小田となるや白曜日

南柯句会

選句用紙

選者名　福田洸弥

特	6	5	4	3	2	1
焼き印の放馬（ほうば）相寄る露の朝	土塊（つちくれ）の紅鮮やかに甘藷（も）畑	枝豆や大衆といふ心地よさ	中華屋のおかもち照秋日照りし昼	六識の称ろふ秋の気配かな	孫帰り戦の後の障子貼る	なぞなぞを出し合いながら鶺鴒さく

南柯句会

選句用紙

選者名　富野香衣

1	2	3	4	5	6	特
稲雀とぶ金堂の屋根の反り	枝豆や大衆といふ心地よさ	仁丹の看板下ル虫の闇	秋澄むや海を丸めて日の沈む	秋澄むやブロンズ像の足の爪	雨の日は雨の音聞く九月かな	頂に鉄塔残し霧の中

南柯句会

選句用紙

選者名　山本わこ

1	2	3	4	5	6	特
焼き印の放馬相寄る露の朝	枝豆や大衆といふ心地よさ	柚子坊のむぎゅっと踏まれ角出しぬ	芋洗ふ女に星は囁きぬ	草の実や家の角より荒れ始む	今朝よりは金木犀の道となる	食卓のコスモス二輪野の日差し

南柯句会

選句用紙

選者名 服部梅句

1	2	3	4	5	6	特
眼科歯科巡りそ見上ぐ鰯雲	まだ青き穂の乳甘し稲雀	稲雀とぶ金堂の屋根の反り	大正池立ち枯れの木に冬近し	漱石の書斎に艾と投句箱	ひとまずは簞笥一段冬支度	大きさも艶も無双の丹波栗

南柯句会

選句用紙

選者名 飯田守彦

特	6	5	4	3	2	1
戦略は天地いっぱい稲雀	漱石の書斎に萩と投句箱	八窓の切り取る秋の躙り口	無数の汁(イフ)ありて今あり天の川	穂のさやぎ里のさやぎや稲雀	仁丹の看板下(さが)ル虫の闇	山道の缶に銭音柿を食ぶ

南柯句会

選句用紙

選者名　近藤和草

特	6	5	4	3	2	1
仁丹の看板下がる虫の闇	一斉に刈田となるや日曜日	飛鳥史を辿るどこそこ曼珠沙華	稲雀リスクにまさるベネフィット	唐茄子や水玉に愛うつす画家	龍の棲む池畔にスタバ小望月	秋晴や特売野菜買逃す

南柯句会

選句用紙

選者名　山下疾風

特	6	5	4	3	2	1
今朝よりは金木犀の道となる	芋洗ふ女に星は囁きぬ	稻雀国はじまりの里暮るる	一斉に刈田となるや日曜日	野外能黄泉と現世の白い月	八窓の切り取る秋の躙り口	柚子坊のむきゅっと踏まれ角出し

南柯句会

選句用紙

選者名

1	2	3	4	5	6	特
稲すずめ田の大正昭和かな	着板さかる虫の闇		ふくろひのくりめしとんと腕に盛る	ひかぴかに窓拭き上げて秋高し	愛着の眼鏡を捨てる白秋忌	板先の車窓うつ冴ふ 秋の雨

南柯句会

選句用紙

選者名 友澤一途

特	6	5	4	3	2	1
ひとまずは簞笥一段冬支度	山道の生に銭音柿を食ふ	頂に鉄塔残し露の中	仁丹の看板下ル虫の闇	さびれたるぶらくり丁の星月夜	鰯雲せかれ転職したといふ	新米の値段は安く感じけり

南柯句会